

ハワイのプランテーションで文化が出会う

Key words ホレホレ節、ミックスプレート、言語、文化接触

1 活用する主な展示および資料

- アニメ「弁当からミックスプレートへ」
- 展示「ハワイへの官約移民」「家庭生活」
- 「いみんトランク」



2 教科・領域との関連性および総時間数

- 総合的な学習の時間
- 特別活動（校外学習）
- 全3時間（事前1時間、見学1時間、事後1時間）



3 目標

- 展示から移民の文化接触や変容について理解することができる。【知識・技能 / 総合】
- 展示から見つけた移民の文化接触や変容に関する情報から、言語、服装、食などのテーマを設定し工夫して発表にまとめている。【思考・判断・表現 / 総合】
- 文化変容についてより深く追究し、学校や地域にいる外国につながる人たちの生活や様子に関心を持って交流しようとするきっかけをつかもうとしている。【主体的に学習に取り組む態度 / 総合】



4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

1868年、日本人最初の海外移住者約150人がサトウキビプランテーションの労働者としてハワイに渡り、その後1894年にハワイ官約移民制度が廃止されるまでに、約2万9,000人がハワイに移住した。多様な国からの移民が働いたプランテーションで、他の国から来た移民との生活様式をどのように工夫していたのかを考え、プランテーションでの文化の変容と当時の人々の生き方について学ぶ。文化接触と変容、保持の課題は、現代の多文化社会を構成する日本の社会でも考えるべき視点で、生徒が海外移住資料館での学びを通して多文化社会の一員としての資質・能力を高めることができる。

共通言語を持たない日本、中国、ポルトガルなどの移民がともにプランテーションで働く中で言語接触だけではなく文化接触により何がもたらされたのか、実際の資料館の展示物から見つけて調べ学習を行う。衣類や食に関することに視点を広げることで、理解を深めることができる。

中学生は、抽象的な思考を学ぶ段階であり、資料館の学びの体験を抽象的な「文化接触」「文化変容」などの用語を用いながら説明させたり、「移民」がグローバリズムの中で背負った課題に気づかせたりさせたい。

5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> アニメ「弁当からミックスプレートへ」を視聴する。 <ul style="list-style-type: none"> ●言語の異なる人々とハワイのプランテーションで働くこととなったとき自分がとる行動について考える。 アニメからどのような言語が使用されているか？ <ul style="list-style-type: none"> ●ハナ、ルナ、カウカウ、バグーンそれぞれこの国の言葉なのか、言葉の意味を調べる。 「ホレホレ節」を聞こう。 <ul style="list-style-type: none"> ●ハワイの日本人移民が労働歌として歌っていた。 	 「弁当からミックスプレートへ」 <ul style="list-style-type: none"> ●日本人移民、ポルトガル人、中国人、韓国人、フィリピン人、ハワイの人々がプランテーションで働いていたことを解説する。 ●「ホレホレ節」の歌詞から当時の人々の生活を考える。  「ホレホレ節」
資料館見学	<ol style="list-style-type: none"> 文化や言語接触によって生み出されたものを資料館で探そう。 資料館で「ホレホレ節」を聞こう。 <ul style="list-style-type: none"> ●「ホレホレ節」が歌われていた背景を知る。 ●展示「ハワイの官約移民」のコーナーの前で、「いみんトランク」のハナハナの労働着を実際に着て、感想を言葉にしてみる。 ミックスプレート、アルミ製の弁当箱、移住者の労働着（ハナハナウェア）、キャベツのつま、スパムむすび展示を見て気づいたことを考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> ●文化が接触することによって言語以外にもさまざまな物が生み出されることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●資料館では、展示から探すことを目的とし、見つけた物を共有させる。 ●マネキンを見ながらグループで協力して着る。 ●ハワイ官約移民の生活だけではなく資料館全体を見学するよう促す。
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> 現地の文化と移民の文化接触によって生み出された物を班で1つ絞ってまとめる。（言語、服装、食べ物など）班ごとにクラスで発表を行う。 移民が交流することによって、人々にどのような影響があったのかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ●言語接触だけではなく、文化の接触により何がもたらされるのか知る。良いことと課題であることの双方を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●同じ展示を見ていても、考え方や着眼点がそれぞれ違うことを推測させる。 ●ハワイの人々の立場から流入してくる移民について考えさせたい。

6 学習後の姿

資料館での学びと事前事後の学習を経て、日本の多文化社会の中で起きている文化接触や変容について関心をもつようになり、学校や地域にいる外国につながる人たちの生活や様子に関心をもって交流を深める姿を期待したい。

7 授業づくりのための参考資料

- 中原ゆかり著 (2014)『ハワイに響くニッポンの歌：ホレホレ節から懐メロ・ブームまで』人文書院
- JICA 横浜 海外移住資料館 (2007)『海外移住資料館だより』No.8